

平成30年度 授業評価アンケート分析

平成30年10月実施

<結果と分析>

	課題・成果等	改善策・向上策・目標等
国語	昨年度より「当てはまる」と回答した割合が低下した質問が多い。特に2,4,9の質問について低下の割合が高いので、丁寧に生徒の実情に沿った指導を心がける必要がある。しかし、昨年度「当てはまらない」の率がやや高かった6,8については減少した。集中できる雰囲気の下、授業に取り組むことができていると感じている生徒が多いようだ。	その授業で学ぶことを明確に提示し、生徒の学力に沿った丁寧な授業づくりを心がけたい。授業中に集中できる雰囲気は向上しているの、授業の組み立てや教材を精査し、机間指導など個別対応できる時間を増加させたい。また、学習形態を工夫し、生徒が成長を実感できるようにしていきたい。
社会	アンケートで「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が、すべての項目で昨年の結果を上回った。特に、授業で「わかった」「できた」は昨年より15.2%上昇した。授業改善の努力の成果が少しずつあらわれているように思われる。今後、さらに授業力の向上に努め、学力向上に結びつけたい。	アンケート結果で、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が90%に満たなかったのは、授業理解と授業に集中できる雰囲気が該当する。授業で「わかった」「できた」と理解させるために、テーマに迫る具体的な資料を効果的に提示したり、理解できたことを確認したりして授業を進めていきたい。また、授業に集中できる雰囲気をつくるために導入時のテーマの設定や取り組み意識を向上させるなどの指導を行っていきたい。
数学	義務教育段階の基礎学力の低い生徒が多く、学び直しに力を入れている。授業に集中できる雰囲気である。」に対する回答結果の「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の合計が、昨年度69.2%と増加していたが、今年度45.9%に減少した。今後も雰囲気づくりについて検討したい。	昨年度、生徒が授業に集中できない原因のひとつとして、適切な難易度の授業が出来ていないのではないかと考えて、特に1年次で、学び直しは行いが、難易度を上げた。その結果、満足感や緊張感をもって授業に臨める生徒が増えたのではないかとと思う。今後も生徒にとって「わかった」と実感できる満足感のある授業ができるよう、難易度などを生徒の実態に合わせて工夫したい。
理科	生徒自身が授業に取り組もうとする意識はできているが、授業に集中して取り組む雰囲気ができていないという結果がみられる。また、学習内容に対して「わかった」「できた」という達成感が不足していると感じる生徒がいることから、学習教材の工夫と展開の工夫が必要である。	落ち着いて授業に取り組む雰囲気を作り、理解の助けを増やすため、学習内容や単元の目標を明確にし、個々に合った対応をすすめる。また、教材の提示など工夫を図り、実験・観察等を行い、体験的に理解できるような教材を利用する。
英語	昨年に比べて肯定的回答が増加したのは項目1,3,5,7で、一定の成果があったと思われる。その一方で、項目2,6,8,10は否定的回答が増加し、特に「わかりやすい教え方」「授業の進む速さ」が今後の課題として残る。	「声の大きさや話しの速さ」の調査結果は前年と変わらないので、丁寧な教材作りやわかりやすい説明を心がけたい。また、基礎的学習を反復し、スモールステップの課題を多く用いたい。
保健体育	「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した生徒を足すと、全ての質問項目で90%以上の数値であった。また、「当てはまらない」と回答した生徒がほとんどの質問項目で0%だった。これからも生徒の声に耳を傾ける丁寧な指導を、継続していきたい。	質問6の「成績の出し方がはっきり示され、適切に評価されている」という質問項目については、「あまり当てはまらない」と回答した生徒がいる。今後は、授業や単元のはじめに評価の基準やポイントを適切に伝えていくことが、生徒の授業の理解にもつながると考える。
芸術	項目2,4,5,7,9,10については、全ての生徒が「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答したことは生徒・教師ともに【よりよい授業】を意識してきた成果と捉えることができる。	生徒が明確に「分かった」「できた」と実感できる授業づくりに努める。また、授業を行う上で生徒がより集中できるよう環境整備も工夫していく。
家庭・福祉	昨年度と比較すると、評価が良くなった項目が多い。今後も、生徒の期待に応えられるような授業の工夫をしていきたい。	授業に集中できる雰囲気作りを大切にする。目的を見いだせないまま科目選択をしている生徒もいるため、学習内容について、より丁寧な説明を行う。また、分かりやすい授業や指導法についても、引き続き工夫していく。
農学	解析から、多くの生徒が教員の授業展開のペース、声の大きさに一定の評価をしている。次いで自己の受講態度に関して評価出来ている。一方で、評価が低い項目が、授業に集中できる雰囲気という点について満足できていない生徒がいる。	課題としては、授業の内容をしっかりと理解できるような雰囲気を作ることが重要である。授業空間の規律を見直して、理解力の高い生徒と、そうでない生徒の進度に差が開かないように小テストの実施やその内容補足を行い、全体の理解度を確かめながら進めていきたい。
機械	ほとんどの項目で、約95%の生徒が「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答していることから、生徒にとってよりよい授業が展開されていると考える。しかし、「授業に集中できる雰囲気である。」では、約10%の生徒が「当てはまらない」と回答していることから、集中して取り組むことができる雰囲気作りをすることが求められる。	授業に集中できる雰囲気をつくるためにも、生徒一人一人の進路意識を向上させ、主体的な追究を促す授業展開を心がけさせることで、授業規律の確立を図る。また、生徒の意欲・関心を高めるためにICTの活用等を積極的に推進する。
商業	授業の進む早さが適切でないと答えている生徒の割合がほかの項目に対して高く、生徒の理解力に合わせた指導方法を構築しなければならない。また、自分はまじめに取り組んでいないと考えている生徒の割合、および授業で「わかった」「できた」と思わない生徒の割合がともに高く、その対策が課題となる。	昨年度から引き続き、習熟度別授業を実施して生徒の理解度に合わせた授業展開を心がけているが、生徒の実態を今以上に把握して、適切に授業展開できるよう努めていきたい。また、商業の学習の意義を事前に理解させ、興味や関心を持てるように教材を精選し、わかる授業を目指して、生徒がまじめに課題に取り組めるように対策を講じていきたい。
情報	昨年と比較すると、全体的に「良くあてはまる」が増えてきている。しかし、成績の出し方がはっきり示され、適切に評価されていると感じていない生徒が1割以上いる。もっとわかりやすく、繰り返し示さなければならない。	わからないところがあるときは、積極的に手を挙げてアピールするよう声がけはしているが、なかなか手が挙がらず、わからないことをそのままにしている生徒が多数いるようである。わからないことは恥ずかしいことではないことを周知させ、積極的に授業に参加できるよう、T2の先生と協力して、机間指導を強化していきたい。